

島嶼
雨林



目

次



朝花節	あさはな	1
俊良主節	しゅんじょうしゅぶし	
くるだんど節	くるだんどぶし	
行きゆんにや加那節	かぎゆんにやかなぶし	
よいすら節	よいすらぶし	
らんかん橋節	らんかんばし	
糸くり節	いとくりぶし	
長朝花節	ながあさはな	
塩道長浜節	しおみちながはま	
浦富節(むちや加那)	うらとみぶし	
東れ立雲節(送り節)	あがたちくもぶし	
芦花部一番	あしりかぶいちばん	
豊年節	ほうねんぶし	
雨ぐるみ節	あまぐるみぶし	
俊金節	しゅんきんぶし	
諸鈍長浜節	しょどんながはま	
長雲節	ながくもぶし	
今ぬ風雲節	いまかぜくもぶし	
かんつめ節	かんつめぶし	
イトー		
朝顔節	あさがおぶし	
東れ日ぬ春加那節	あがひはるかなか	

40 39 38 36 35 34 32 31 30 29 28 27 26 25 24 22 20 19 18 17 16 13 8 1

渡しや	わた	41
飯米取り節	はんめとりぶし	
長きく女節	ながきくじょぶし	
太陽ぬ落ていまぐれ(御枕節)	たいようぬながねふしひまぐれ(ごしらべぶし)	
寅申長峰節	とらしんちあねながみねぶし	
徳之島節	とくねしまぶし	
いそ加那節	いそかなぶし	
国直よね姉節	くにのぶよねあねぶし	
徳ぬ島一切節	とくぬしまいつせいぶし	
曲りよ高頂節	まがりよたかぢょうぶし	
行きよれ節	いきよれぶし	
側家戸節	そばやどぶし	
山と与路島節	さんよろじまぶし	
ほこらしや節	ほこらしやぶし	
嘉徳なべ加那節	かとうだくかなぶし	
まんこい節	まんこいぶし	
長雨きりやがり節	ながむさきりやがりぶし	
こうき節	こうきぶし	
花染め節	はなぞめぶし	
稻すり節	いねすりぶし	
天草	あまくさ	
ワайд節	わいどぶし	
六調	ろくちょう	

64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 49 48 47 46 45 44 43 42 41



朝花節

一、① ハレイ突然出でいはばかりながら

※ 島一番よ村一番よ

ハレイ御免下されませ此ぬ家ぬ御亭主様

一、② ハレイ参もちやん人どう真実あらんな

※ イチヤヌカラソナマヌカラソヨ

ハレイ石原踏み切ち参もちやん人どう真実あらんな

一、ハレイ稀れ稀れ汝きやば拝でい

※ 島一番よ村一番よ

ハレイ今汝きや拝むいばにや何時頃拝むいかい

一、③ ハレイ稀れ稀れ汝きやば拝でい

※ イチヤヌカラソナマヌカラソヨ

ハレイ神ぬ引き合わせに稀れ稀れ汝きやば拝でい

一、④ ハレイ拝まん人む拝でい知りゆり

※ ヨイサヨイサ ヨイサヨイヤ

ハレイ命長むていうりば 拝まん人む拝でい知りゆり

一、ハレイ汝きやとうや稀れ稀れど

※ カナシャムチロン タヨリヤネンド

ハレイ互に稀れ稀れじやんが夜さり夜や遊びんしょろや

一、ハレイ朝花はやり節

※ ガンヨガンヨ住用ヌガニヨ

ハレイ唄ぬ始まりや朝花はやり節

一、ハレイいじやさんなやりーじやさんな

※ アツカラカンカン カキユスイティンニヨ

ハレイ声や待ちなりじやんが いじやさんなやりーじやさんな

一、ハレイいもらん加那 待とうよりむ

※ ヨイユタムンジヤ タトエタムンジヤ

ハレイ昇る二十一、三夜ぬ 御月様待ちがまさり

一、ハレイあん雲ぐわぬ下だろど

※ ニヤニヤリキバリバ島一番ヨ

ハレイ吾きやが思とる人や あん雲ぐわぬ下だろど

一、ハレイ今がでい来んばにや来んだろど

※ ヌガヨナンミヤ ウガジヤイモリュン

ハレイ月やあま下がりゆり 今がでい来んばにや来んだろど

一、ハレイ待ちゆたん夜ぬが参らんたる

※ ヒダリシマンコ ニギリシマンコ

ハレイ枕取り並ぶいてい待ちゆたん夜ぬが参らんたる

一、ハレイ稀れやらんな今日やらんな

※ イチヤヌカラソ ナマヌカラソ

ハレイかよな取り合わせや稀れやらんな今日やらんな

一、ハレイ吹き流せよ南ぬ御風

※ ヨイサヨイサ ヨイサヨイヤ

ハレイ大和山川がでい吹き流せよ南ぬ御風

一、ハレイ此ん物思やすらんたろど

※ ガンヨガンヨ住用ヌガンヨ

ハレイ一時待ち合わすいば此ん物思やすらんたろど

一、ハレイ面影ぬ立たんちあんにや

※ カナシャムチロン タヨリヤネンド

ハレイ太陽ぬ落てい下りんにや面影ぬ立たんちあんにや

一、ハレイ別れてい行きやならんど

※ 吾二人ナロナロ人トウナラリンニヤ

ハレイかしがでい愛しやるみんな別れてい行きやならんど

一、ハレイ年寄たん沙汰やあらんな

※ ナマ青年ジヤガヌバイモリュンヨ

ハレイ声ぬだらめきゅすいや年寄たん沙汰やあらんな

一、ハレイ島残りや落すなよ

※ ガシドガシド汝ガ言モンガヌン

ハレイ明日や船出しじやんが島残りや落すなよ

一、ハレイ行きやんば加那居りなりゆむい

※ ヨイユタムンジヤ タトエタムンジヤ

ハレイ此処や汝きや島じやんが行きやんば加那居りなりゆむい

一、ハレイ明日が夜なしんしょろや

※ ヌガヨナンミヤ ウガシヤイモリュン

ハレイ今夜やてているだむいしゅうてい明日が夜なしんしょろや

一、煙草ちゅんまみしょちうもれ

吾家や道端じやんが 煙草ちゅんまみしょちうもれ

一、三味線なでい抱からだなよ

吾が愛しやる人に 三味線なでい抱からだなよ

一、三味線ぐわば弾きばくらちど
さむしん ひ

加那がくどう思てい 三味線ぐわば弾きばくらちど
かな うも さむしん ひ

一、愛しやん人や 鷄卵
かな ちゅ にわとりたま

吾や親鷄なてい 朝な夕な抱きとうりぶしやんど
わぬ うやどり あさ ゆう う

一、吾二人どうや 玉黄金
わつたり たまくがねい

子供産ち孫見りがでい 吾二人どうや 玉黄金
くわな まがみ わつたり たまくがねい

一、女線なんど小使錢ぬ入ゆり
むいでいる くわな くわ ま がお ぶんぬう てい

女ぬ娘や向け顔なんど煩惱ぬ付きゆり
うぬ くわ ま がお ぶんぬう てい

一、弾きふらすいよ 小女線
ひ いじや

声ぬ上げ下げ 弹きふらすいよ 小女線
くい あ さ ひ いなさんむいでいる

一、出さんなやり出さんな
いじや

あつたら三味線ぐわば汝一人一人物言ち
さむしん なむちゅりちゅりむぬいや

一、唄声なんにや惚りらんたんど
うたぐい ふ

加那が肝心に 千惚りしやんど万惚りしやんど
かな きむこころ せんぶ まんぶ

一、唄すいりすいり寄たん青年きや
うた ゆりよ ぬえせん

唄やしじどう習ゆる 唄すいりすいり寄たん青年きや
うた なら うた ゆりよ ぬえせん

一、他人加那ちや思なしきりやんど

かしがでい愛しやる人や 他人加那ちや思なしきりやんど

一、出しゆん人どう上手上手

声や持ちなりじやんが 出しゆん人どう上手上手

一、愛しやん人や一人一人

島中七間切りに 愛しやん人や一人一人

一、通たる家裏通道ぐわ

今や通だなしゆうてい 苦ぬ生てい草ぬ生てい

一、いもらん加那待ちゆんゆりむ

上がらん一一十二、三夜ぬ 御月様待ちが勝り

一、通わん者ぬ吾取りきゆんむい

下駄ぬサベなりがでい 通わん者ぬ吾取りきゆんむい

一、昼夢がでい見ちやんど吾な

あんまり思むえ詰むえてい 昼夢がでい見ちやんど吾な

一、昔や如何あたんち

今や離きや離きやしゆんが昔や如何あたんち

一、岬や凧どうりとう

みさき とうり

明日や舟出しじやんが岬や凧どうりとう

あぶらとう かなだ

一、油凧りなち給れ

あぶらとう

明日や舟出しじやんが油凧りなち給れ

あぶらとう たぼ

一、明日が夜なしきりやんど

あちや よねい

かしがでい面白さむんな

あすい あちや よねい

一、遊でいうもれ語ていうもれ

あすい かた

今夜や夜通じやんが遊でいうもれ語ていうもれ

ようねい ゆながと あすい かた

一、元氣しうもれ達者しうもれ

げんき

今夜拌だる人々元氣しうもれ達者しうもれ

ようねい ちゅんきや げんき

俊 良 主 節

一、ハレイ汝達拝むいヨイー

ハレくとうや 夢やちゅんまヨイー

ハレ見りやぬヨイー アケーヤーレーイ

神様ぬ ヨーイーヌ

※ ハナシヤ キチュタガ ヨーネガハジメ

神様ぬ ヨーイー

引合せに 汝達ばまたヨイー

ハレ拝でい知りゆりヨイー アケーヤーレーイ

神様ぬ ヨーイーヌ

※ ナティカシャ ミクイヌ チュンナマイジティ

神様ぬ ヨーイー

引合せに 汝達ばまたヨイー

ハレ拝でい知りゆりヨイー アケーヤーレーイ

※ 吾きや番な済まちやが汝きやに頼も

※ オシランド タマランド ニヤスギラランド

※ イジャサンバ イツチャタン調子ぬ悪サ

一、泣くな嘆くな小金久ぬ俊良主

汝妻ぬみの加那や

つもりありよおていどう苦海水飲ち

一、年や寄らば心から寄らず
白髪から寄りゆる

年ぬまた羨ましやぬ

一、世間なんてい羨ましやや七倉建ていとうてい

食りゆん人どう羨ましやや

うりゆりむ羨ましやや母とう父とうが

居もりゆん人どう羨ましやや

一、母とう父とうが、母とう父とうが好かん家ば立ていちば

好かん家ぬ立ちむなりゆむい

にわとりたま
鶏ぬ卵ぐわし石垣積むいちば石垣ぬ積むいなりゆむい

一、唄ぐわぬぐいん取らば西や真古志ぬ

直松ぐいんぐわ取りい

三味線ぐわぬぐいん取らば宇検な市四郎

西ぬ古見や長浜やんむいおりゆりい

※ 汝三人寄りよすいば取つたい投げたい

一、母とう父とうが結だる縁ぐわや磯端下がりぬ枯にぎやな心
かな あんま じゅう わん えん いしょばたさ かれ こころ

加那とう吾んとうが結だる縁ぐわや餅とうかしゃとうぬ心
かな じゅう わん えん むち こころ

一、島や何処ぬ島む変わる義やねらぬ
しま だ しま か ぎ

水に引きやさりてい言葉また変わる
みでい ひ くとうば か

一、朝寝しゆる朝 枕元見りば
あさね すかま まくらもとみ

吾が置かぬ花ぬ 咲ちゆる不思議
わ う はな さ うとうまらしゃ

一、浮世仮島に物思しゆてい何しゆり
うきよかりしま むぬめ ぬ

言ちやり語たり飲まちやり喰だりすろや人きや
い かた ぬま か ちゆん

一、籠もり浅ていどう 獬 水なりゆり
あさ ぬま にぐりみでい

心浅ていどう 女郎名立ちゆり
こころあさ ぞれなた

一、愛しや重ねりば心配物思なりゆり
かな かさ しわむぬめ

心配すらぬうちにぬきやまたまさり
しわ

一、愛しやしゆていぬくば ぬちいじむ愛しや
かな かな かな

憎さしゆていぬくば ぬちいじむ憎さ
にく にく にく

一、いきや苦さあていむ 泪落ち泣くな
くてい なだう な

涙落ち泣くば 世間がまた笑う
なだう な よそ わら

一、眠ましやだるさや六月日照りぬ磯山戻り

うりゆりむだるさや七月妊娠ぬ田ぶし道歩き

一、加那待ちゆる夜や夜中目ぬ覚むてい

月や西下がてゝ夜鳥や鳴きゆり

一、西からむ集ゆり東からむ集ゆり

かよな取り合せや稀やあらむい

一、稀稀ぬ御兄弟集合えば愛しや

集合う時ちゆんま解てゝ遊ぼ

一、取合せむあらむ集合せむあらむ

神ぬ引合せに貴方ば拝でい

歳の祝いの唄

一、六十重ねりば百二十ぬお年　かけくさえ食ち世ぬ永ね

一、七十三がでいや若き年心　子孫集ち百歳願お

一、八十八なりなば白雪ぬ姿　米盛かざてい百歳願お

一、白髪年方や床ぬ前に居してい　我きやや下さがてゝ仰ぎ拝も

一、月に願たていてい太陽拝でい

我ぬ産ちやる親がなし　百歳願お

老境の唄

一、歳や走り川ぬ流れ水心 ゆり返てい見欲しやや元ぬ十八、九
一、花や根あらば二度返てい咲きゆり

にどけえ 二度返てい咲かぬ汝きやとう我きや

うきよかりしま 浮世仮島に一代居らりゆむい 言ちやり語たり浮世話

一、浮世仮島に一代居らりゆむい 情けあるこの世仮ぬ世さむい

とうし ゆ 一、歳や寄てい行きゆり先や定まらぬ 荒海に浮ちやる舟ぬ心

一、歳や走り川ぬ流れ水心 七、八十なゆつすいや覚や無らぬ

くるだんじ節

一、ハレイ生なれよ茄子なすびイ ヤレー花はなぬ咲さちゅん数かずひとえだのこ一枝残さざす

※ スラヨイヨイ

生なれよ茄子なすびヨーハレイ 花はなぬ咲さちゅん数かずひとえだのこ一枝残さざす

生なれよ茄子なすび

※ 花はなぬ咲さちゅん数かずひとえだのこ一枝残さざ生なれよ茄子なすび

ハレイ胸むねに染すいむいろイ ヤレー親うやぬ教ゆしぐとう 一言残ひといととのこさず

※ スラヨイヨイ

胸むねに染すいむいろイヨー哈ハレイ 親うやぬ教ゆしぐとう 一言残ひといととのこさず

胸むねに染すいむいろイ

一、花はなぬ咲さちゅり御京山咲さくなんど

千年から咲せんねんみらん花はなぬ咲さちゅり

なおそなおそ明あけてぬ二、三月吾わきや家やぬ庭にわかち なおそなおそ

一、走はれよ舟ふねしりやふまきやまきや 戻むどしなりゆむい

黒潮くろしうや乗り出ぬだち 戻むどしなりゆむい

一、照てり美きらさ十四日御月うでいきとう十五日御月うでいきぬ照きり美きらさ

うりゆんま美すいらさ島しまや節子すいこぬ富とみ姉ばつけむいまゆ 目眉まゆや うりゆんま美すいらさ

一、山ぬ高さ大島や湯湾岳　波ぬ高さ島や七島灘　大和や玄界灘　山ぬ高さ

やま たか おしま しちとうなだ やまと げんかいなだ やまと かいもんだけ

なみ たか しま しちとうなだ やまと げんかいなだ やまと かいもんだけ

なみ たか

やまと げんかいなだ やまと かいもんだけ

なみ たか

一、唄ちあんにや くるだんど節がでい 唄ちあんにや

イトードうある 磐山戻りぬ イトードうあるスラウテ

一、涙ぬ落ていてい母とう父とうが寝顔ぐわ拝むいば涙ぬ落ていてい

なだ う あんま じゅう ねがお うが なだ う

ながい ぬいが わ な こ で く ゃ ろ

長生き願お なきや吾きや産しんしょちゃん

年とだん母とう父とうが 長生き願お

あむい くる あまご ぬえが ながい ぬえが

喜びじや島々人達ぬ 喜びじや

あでいていくなでい あでいていくなでい あでいていくなでい

一、阿鉄小名瀬くるだんど一番な 阿鉄小名瀬

ひぎや かていでい いちばん ひぎや かていでい

東や嘉鉄 手舞ぬ一番な東や嘉鉄

うわなり あすい な わ あすい うわなり

遊ぶいばや 游きや吾きや寄りやとうてい遊ぶいばや

あんま うかけ おおしまつむぎ う なる あんま うかけ

一、母が御蔭 大島紬ぬおさ打ち習たつさ 母が御蔭

じゅう うかけ そろばん こうとうしようがつこうかよ

父が御蔭 算盤ていでいむいてい高等小学校通たつさ

じゅう うかけ

父が御蔭

そうだん

ちようでいさま

そうだん

一、相談ぬかかていイギリスオランダぬ朝廷様から相談ぬかかてい

か 借らち給れ おおしまつむぎ おおしま やけうちみなと いりぐちか たぼ 借らち給れ

一、島ぬ宝 大島紬に鰹節、黒砂糖、島ぬ宝

しま たから おおしまつむぎ かそぶし くるさた しま たから
うりゆんま 宝 目黒眉黒 色白女童やうりゆんま 宝

一、語でいくりんな遊でい戻りんにや連りらつてい

かた 行きゆたんち語でいくりんな

ちんめ 賃前うえせろ上抜てんぬ緒 じょうぬき お 七ぶすとりきり賃前うえ なな

一、妾すがた金縁茶茶碗に水入りてい居しりば 妾すがた ねんこう やとうじすがたあさぐろちやわん みでいい

家妻 姿 浅黒茶茶碗に水入りてい居しりば家妻 姿 ねんこう やとうじすがた しるたひく いも

一、あつから参り段傘さち白足袋踏み踏みあつから参り いも だんがさ しるたひく いも

でい吾きや待ちゆろ新茶屋じ新茶買てい菓子屋じ菓子買てい わ ま しんぢやや しんぢやこう かしゃ かしこう

でい吾きや待ちゆろ新茶屋じ新茶買てい菓子屋じ菓子買てい わ ま しんぢやや しんぢやこう かしゃ かしこう

一、やらしきらんど吾きや加那兄 や熊本鎮台かちやらしきらんど
行きやんばなりゆむい名瀬行じ調べなてい あたり い

クジがでい当たりば行きやんばなりゆむい

行きゆんにや加那節

一、行きゆんにや加那かな、吾きやくと忘わすりて 行きゆんな加那かな
汝なきやくと思うめばや行きぐるしや スーラい行きぐるしや
一、あんまとじゅう、むぬめやしんしょんな あんまとじゅう
米くむいとう取まむいとうて豆まむいとう取まむいとうて、みしょらんしゅんど スーラいみしょらんしゅんど
一、鳴なきゆん鳥とりぐわ 夜明ゆあけぬ峠てらじなんてい鳴なきゆん鳥とりぐわ
うりや吾わきや加那かな、思うめじ泣なき スーラう思うめじ泣なき
一、目むぬ覚さめて、夜ゆるや夜ゆながと目むぬ覚さめて
吾わきや加那かなくとう思うもてい寝ねいぶららぬ スーラぬい寝ねいぶららぬ
一、鳴なきゆん鳥とりぐわ、立たちがみうき神冲なんてい鳴なきゆん鳥とりぐわ
吾わきや加那かなやくむい役い目まぶりが生まぶりき魂まぶり、スーラ生まぶりき魂まぶり

よいすら節

- 一、舟ぬ高どもに、ヨイスラ 舟ぬ高どもに、ヨイスラ
※ スラヨイスラヨイ
- 居ちゆる白鳥ぐわ、スラヨイスラヨイ
※ スラヨイスラヨイ
- 白鳥やあらぬ、ヨイスラ 白鳥やあらぬ、ヨイスラ
※ スラヨイスラ
- 姉妹神がなし、スラヨイスラヨイ
- 一、生まれ運やあていむ、育ち運ぬ無だな
親一人中に、育ちまた見ぶしや
- 一、千鳥浜千鳥、うらやぬが泣きゆり
あんま面影ぬ立ちど また泣きゆり
- 一、面影の立ていば、泣きがでいやするな
泣ちゆて思出しいば、まさていまた立ちゆり
- 一、今日やくまゆりやてい、いろいろぬ遊び
明日や島戻どてい、いさたまた語ろ

らんかん橋節

18

一、大水ぬ出じていヤーレー らんかん橋、流れ流らち

※ スラヨイヨイ

らんかん橋、流れ流らち

※ ランカンバシアレナガラチ

偲で来ゆる加那やヤーレー 泣ちどまた戻りゆうる

※ スラヨイヨイ

泣ちどまた戻りゆうる

一、白水ぬ出じて、さいたながば流れ流らち

餌取りやぬ加那や、泣ちどうま戻りゆうる

一、長雨切りやがりや、沖やとりどりと

沖やとりどりと、七難れまた見りゆる

一、穴ちば穴、渡ららぬ深穴

情橋架けて、渡ちまた給れ

一、情橋架けて渡しぶしやすが

よそぬ目ぬしきせ、口ぬまた高さ

なまくみでい
い

むい

なまくみでい
か

むい

ぱし

ぱし

糸くり節

- 一、心配じや心配じや、糸くり心配じや
※スラヨーライヨーライ
糸ぬ切りりば、結ぱりゆむい
トコヤヌースラヤヌーバイドガージュイジュイ
糸や切りりば、結びむなりゆり
- 一、縁ぬ切りりば、結ぱりゆむい
糸くり一番な、実定役目
- 二番なりゆん人や千代姉ぐわ
糸やくらさば、上糸くらせ
- そげなぶつかまんぬ、くりなりゆむい
- 一、心配じや心配じや、うぎ切り心配じや
うぎぬ高切り、札はきゆり
- 一、心配じや心配じや、うぎくわし心配じや
うぎぬ生ぐわし、札はきゆり
- 一、糸くり節ぐわや、宇検人にすむいてい
ならぬ太鼓や、生勝人きや

なが
あさ
ばな
ぶし
長朝花節

一、ハレーハレー今日ぬ佳かる日にハレー吾——吾——が祝てい

※ シマヨイチバンムライチバンヨー

祝^{ゆわ}ていハレーハレーうかば、うせいやーいー

※ スラスラー

ヤーハレー祝^{ゆわ}てい

※ イチャヌカラシナマヌカラシヨー

吾^わが祝^{ゆわ}ていハレーハレーうかばー

※ 吾^わが祝^{ゆわ}ていハレーハレーうかばー

ハレーハレー此りからぬ先^{さき}やハレーおーゆーお祝^{ゆえ}ー

※ ヨイサヨイサヨイサヨイサヨイヤー

お祝^{ゆえ}またハレーバカリトうせいやーいー

※ スラスラー ヤーハレーお祝^{ゆえ}ー

※ ヨイユタムンジャタトエタムンジャー

お祝^{ゆえ}またハレーバカリト

一、今日ぬ嬉らしやや、何時よりも勝り

何時^{いてい}む今日^{きゅう}ぬ如に、あらち給れ

一、
千歳古松ぬ、
ちとせゑるまでい
みどりば
緑葉ぬ下に
した

千歳古松

みどりば
下に

かめ
うた
つる
ま

うやまとたりなか
親二人中に、蓄でたる花ぬ

きゅうよひさきゅら
今日ぬ佳かる日に、咲ちやる美さ

うや
な
あか
み

吾ぬ産ちやる親ぬ、
百年願お
わなうやひやくさねが

あらやしきく
新屋敷好ぬで、
黄金柱建ててい
くがねばりや
た

大工差かねて、
造たる美さ
だいくさし
つく
きゅうら

あらた
改まる年に、
とし
炭と昆布祝て
すみくわゆわ

心から姿、
若くまた願お
ここる
すがた
わか
ねが

あ
はるかでい
ふ
なが
い

ゆ
い
とし
わか

野茶坊節

一、ハレーアー野茶坊ちば、野茶坊や ハレー島ぬ

※ スラヨイサヨイヨイ

島ぬねーぬ 野茶坊や ハレー島ぬ ヨイヤ

※ スラヨイサヌヨイヨイ

島ぬねーぬ野茶坊イーイヨヤーレイー

※ 島ぬねーぬ野茶坊イーイヨヤーレイー

ハレーアー夜や里うりてイー ハレー昼や

※ スラヨイサヨイヨイ

山ぬ育ちー ハレー昼や ヨイヌ

※ スラヨイサヌヨイヨイ

山ぬ育ちーイーイーイヨヤーレイー

野茶坊ちば野茶坊 もぞな生れ野茶坊

昼や山登て、夜や里うれて

野茶坊ちば野茶坊 見ちやる人やうらぬ

津名久幾民ぬ、妻ど見ちやる

一、

一、

や
ち
や
ぼ

や
ち
や
ぼ

ひる
やまねぶ

や
ち
や
ぼ

ゆ
る
さと

ゆ
る
さと

つ
な
ぐ
いくたみ

と
じ
み

や
ち
や
ぼ

よ
し
か
く

や
ち
や
ぼ

す
だ
ち

や
ち
や
ぼ

よ
し
か
く

一、うしゅけ鉢上に 蕎どたる花や

うきやくめえむか

わら さ

お客様前向かて笑て咲きゆり

新代が白浜に 龜ぬ歌すれば

みよ しらはま

かめ うた

きゅら

鶴や羽根たれて舞い美らさ

しらがとしかた

とく まえゆわ

きゅら

一、白髪年方や 床ぬ前祝てい

吾ぬや下さがて伏しやげ拝も

わ しゃ

ふ うが

しゆ
みち
なが
はま
ぶし
塩道長浜節

一、ハレーエ塩道長浜にイヨーハーレナー

※ スラヨイヨイ

ハーレーイー童泣き しゅすやヨー

ヘイヤーレーストユイートーユー

※ ナティカシャヤートーユイートーユー

ハレーエうりや誰がゆりイヨーハレナー

※ スラヨイヨイ

ハーレーイー汗肌ぬけさまでいゆり

ヘイヤーレヌートユイートーユー

一、
塩道長浜に、馬つなじうかば、

いきやだるさあても、うれとてに乗るな

一、
塩満ちやがり石や、かくれたり見たり

かくれ玉黄金、うれがぐとうに

一、
馬走らち見欲しや、塩道久見金久

舟走らち見欲しや、早町親泊り

浦富節（むちや加那）

- 一、ハレーイー喜界やイー小野津ぬヨー ハレートバヤ
※ スラヨイヨイー
- トバヤーヌむちや加那ヨイー ※ スラヨイヨーイー
- ハレーイトバヤーヌむちや加那ヨイー
- ハレーイー青さ海苔はぎがー ハレーいもろ
- ※ スラヨイヨイー
- いもうーやむちや加那ヨイー ※ スラヨイヨーイー
- ハレーイーもうーやむちや加那ヨイー
- 一、美らさ生りりば友達に憎まれてい
- きもちやげぬ加那や潮波に引かされて
- 一、浦富や浦富、むどしゆめや浦富
- 浦富や浦富、むどしゆすや、島ぬやふれむんよ
- 一、朝潮満上りや、亀ぬ魚ぬ潮時
- 夜潮満上りや、吾きやが潮時

東 れ 立 雲 節 (送り節)

一、 東れ立雲ぬ 行き別れ見るば うめしやらしゅんまへー
※レーヤーレーうめしやらしゅんまへー

加那と行き別れありがまた如にうめしやらしゅんまへー

一、 東れ明がりや月ど明がりゆり

肝急がりすりいば道にまた立ちゆり

一、 白雲やまさり風連りてい行きゆり

吾ぬや加那連れてい行こがまたしのぎ

一、 別れていや行きゆり何ば形見置きゆり

汗肌ぬ手拭 うりがまた形見

一、 汗肌ぬ手拭取りや取ていうちやが

汗ぬがていみりば、むとぬまた白地

母と父が面影や折り折りに立ちゆり

加那が面影や朝夕立ちゆり

あし き ぶ いち ばん
芦 花 部 一 番

一、ハレーイー芦花部一番なヨイー

※ スラヨイヨイー

イヤーレー上殿内ぬー ばあ加那ヨイー

※ ばあ加那ヨイー

ヨーハレ小走やいちよーばんなヨーハレ実久小走やいちよ

※ ヨーホヌヘー

イヨーハレ小走やいちよーばんな

ヨーハレ実久小走やヨーホヌヘー

一、上殿内ばあ加那うやしるこ水心

行きずりぬ他人にしぬばれてい

一、城からうりていさんときなりがでい

よこしへぬ加那によーさりてい

一、よこさりもあらぬだまさりもあらぬ

しげく雨降ていど今がでいたる

一、こばぬ中じばにうちやげうちやげしゅりば

吾ん加那だろち思てい立ちや止どみ

○ 豊年節

一、イヨーハレー七島ぬ灘なんて千石積ぬ

みじぶね

水舟なたんちヨイヨイ ※ スラヨイヨイ

とおながし くむい そん せんちょ いぬち そん
殿様や米ぬ損ど船長や命ぬ損どなろや

ヤーレー七島ぬ灘なんて千石積ぬ

みじぶね

水舟なたんちヨイヨイ

※ スラヨイヨイ

とおながし くむい そん せんちょ いぬち そん
殿様や米ぬ損ど船長や命ぬ損どなろや

ヤーレーラスバマタコイコイ

一、西ぬ口から白帆やまきやまきやまきやまきゆうり

すいでいてい

蘇鉄ぬドウキガイヤーハンクブセヨ ウトミマシユナロヤ

しんニ
やまがわかんのんまるにばんく
まつぎ
は
しんこ

一、線香ぬねんだな松木ぬ葉ば線香ちとばち

やまがわかんのんまるにばんく
ねが

山川觀音丸一番漕ぎ願おなろや

ぐるがねひばし

一、黒金火箸やむでいきりさねきりしゅり

かな

愛しやる縁ぐわや切りぬなりゆむいなろや

にじやままでいき

一、西山松木なんど山鳥ぬ子ば産ち

うやがらす

親鳥やで飛ぼ飛ぼ子鳥や羽ねど待ちゆりなろや

ま
はね

雨 ぐるみ 節

一、西ぬ管鈍なんぞ

※ スラヨイヨイ

雨ぐるみぬ掛かてヨーヤーレ掛かて

掛かてヨーヤーレ掛かて

※ 掛かてヨーヤーレ掛かて

雨ぐるみちありよんにや

※ スラヨイヨイ

吾加那志ぬ目涙どヨーヤーレ目涙ど

目涙どヨーヤーレ自涙ど

一、北ぬくるだんど 雨ぐるみぬ下がて

雨ぐるみやあらぬ志銀主まん加那目涙ど

大和浜降り口なんど餅米御飯ぬあんちやんな

うれがかてむんな、きのこきくらげさいたなが

一、大熊助次郎加那が 童刀自かむいてい

前撫で腰撫でしゆて抱ちゆてふだそ

一、伊津部中道に十円札ば落ち

探むいたらば出じやす見ちやる人やかたれ

とう

俊金節

一、ハレーイ三味線ぐわぬー 駒やイー線支て立ちゆりヨイー

吾ぬやーヨイスラ愛人ー 傑でイー道に立ちゆりヨイー

サーサーイー俊金ぐわイー

※ サーサーイー俊金ぐわイー

吾ぬやーヨイスラ愛人ー 傑でイー道に立ちゆりヨイー

サーサーイー俊金ぐわイー

一、俊金ぐわぬ節や吾がくなち置かば

三味線持ちいもれ、歌付けておする

一、三味線持ちいもれ、歌付けておする
歌付かぬ時や、情付ける

一、今や吾きや童、歌ぬ地や知らぬ

先生れぬ姉た、習して いたばれ

諸 鈍 長 浜 節

一、ハレー諸鈍長浜に

打上引く波やヒヤルガへー

ハーレー諸鈍女童ぬ

わらは笑い歯ぐき ウツセヒヤルガへー

一、諸鈍女童や、雪ぬろぬ歯ぐき

いつが夜ぬ暮れて、御口吸ゆる

一、諸鈍長浜ぬ、如何長さあても

いけじながはま 池地長浜ぬ、上やきらぬ

一、諸鈍女童ぬ、如何美さあても

わしまみやらべ 吾島女童ぬ、上やきらぬ

一、浦々ぬ深さ、諸鈍浦ぬ深さ

しょどんみやらべ 諸鈍女童ぬ思ぬ深さ

長雲節

一、ハレーアー長雲ぬ長さー ハレーしのぎー
※ ヨイサヨイサー

ハレーさゆじ坂ーしのぎー

※ ヨイサヨイサー

ハレーさゆじ坂ー

※ ウーマードーハレーシーイリヤーレーリュール

ハレーアー加那に思なすば ハレー車くるま

※ ヨイサヨイサー

ハレーとうーばーるー車くるま

※ ヨイサヨイサー

ハレーとうーばーるー

一、にしく走りや馬に朱塗り鞍掛けて 長雲ば走らち行くば次や龍郷

一、元日ぬ朝、床向かて見りば うらじろとゆずるゆわい美らさ

一、勝れ馬選で、朱塗り鞍掛けて 長雲ば走らち行くば次や龍郷村

一、長雲ぬ道や吾がされて置かば 踏みやに柔柔と偲でいもれ

一、踏みやに柔柔と偲で行くば 雨しうだり水に濡らちくれんな

一、雨あましゅだり水みに心でい散二二ろらされてい

ぬかんはずぬ加那かなとぬちど行きゆり

一、親うや二人賀那志ふたりがなし、産なしぬなりゆめ 肝魂さきもだまし入れて産なしぬなりゆめ

一、親うやぬうかげしど 此くぬ明あかさ見みりゆり

神かみ拝うがむゆりむ 吾わ親うやうが拝うえで上みせろ

一、天てんぬ白雲しらくもに橋はしかけて見みちやむい なぬや吾わが心こころさぐて見みちやめ

一、西にしからどいもち東ひぎやからどいもち汝うまきやが生じまゆすれ島じま数すいていたばれ

一切朝花節

一、ヤハレーア油断すんな羽黒魚

※スラヨイサヨイサヨイヤー

鳥賊ぬ生餌見ち ハレ 油断すんな羽黒魚

一、ヤハレーア島やねんど夫が島

※イチヌカラニヨナマヌカラニヨ

哀れ女子ぬくわや ハレ 島やねんど夫が島

一、ヤハレーア節子ぬとみ貰て呉れれ

※ 島一番ヨ村一番ヨ

正月にや芭蕉着物着りやばむ ハレ 節子ぬとみ貰て呉れれ

(モ小金一

一、ヤハレーア吾二人とや実久ぬ坊兄め

※ ヨーイユタムンジヤタトエタムンヨ

子産ち孫見りがでい ハレ 吾二人どや実久ぬ坊兄め

一、ヤハレーア愛しやん人や 鷄卵

※ ガンヨガンヨ住用ヌガンヨ

吾ぬや惚れ鳥なてい ハレ 朝ま夕まうさとり欲しやぬ

今ぬ風雲節（三下り）

一、ハレーイ今ぬ風雲や、ハイスリー村が上にハレー立ちゆり
サーヌヨイヨイ スラヌーヨーイドツコイトセー
※ スラヌーヨイドツコイトセー

わしが殿上様、ハイスリー大西原ハレー立てて
サーヌヨイヨイ スラヌヨーイドツコイトセー

一、上がる太陽い拝でい、徳之島渡てい

吾島むどてい、姉妹神拝でい

一、片枝や咲きゆり片枝や枯れてい

咲かぬ片枝も咲かちまたたぼれ

一、松ぬ切口に、朝寝しゆる鳥ぐわ

露にうさわりてい、飛びやまたならぬ

一、朝ぬうとまらしや蜘蛛ぬ舞い下がてい

夜ぬうとまらしやなきやばまた拝でい

かんつめ節

ぶし

一、ハレーエーかんていむい姉ぐわが 明日死によしやん夜や

ヤーレイー名柄ぬ佐念山なんてー

※ スラヨイーヨーイー

提灯御火ぬ下れ上りしゅうたんち

ヤーレイー名柄ぬ佐念山なんて

※ スラヨイーヨーイー

提灯御火ぬ下れ上りしゅうたんち

あわれさ生れやかんていむい姉ぐわ

一、ハレーエー昨夜が夜ねなればー

※ スラヨイーヨーイー

ヤーレイー明日が夜ねならばー後生

後生が道に御袖振りゆりー

ヤーレイー明日が夜ねなればー

※ スラヨイーヨーイー

後生が道に御袖振りゆりー

あわれさ無情さやかんていむい姉ぐわー

一、かんていむいや焼内名柄 岩加那や西ぬ真久慈

(元さとやの一本)

恋路隔むいてい、思ぬ苦さ

①、かんていむい姉ぐわが生れやするな 塩ばていじなむてい

水ぐわば飲でい、此の世ば立ちやんち

一、御生みちが道みちちば如何いかしやる旅たびかやよ 先々さきさき行ゆもちやる人ひときやぬ
戻もどていいもらんが不思議ふしきぎしや

一、かしがで愛こゝしやる玉縁たまえんば結むすすで 暮くらち暮くらざらん時ときや

鳥とりも通かよぬ島しま行ゆぢ吾われ一人ひとり暮くらそ

一、明あかす夜ゆや暮くれて 汝なきや夜ゆや明あけてい

果報節かほうしつあればまた見逢みきよそ

一、岩加那役いわかなやくめ目きが氣どくぬ毒どくしやん事ことや かんていむい見みちやる医者いしゃ様さまや

生きらしゅん藥くすりや持ちうもらんたかや

イトー

一、ハレ長月ぬ太陽やヨー ハレ夜ぬ暮りど待ちゆりヨホイヤー
ながでいき ていだ

ハーラーへイヨホー

※ ハラエンヤーサリコヌヨーヨホイヤーハーラーへイヨホー
ハレ何時が夜ぬ暮りていヨー ハレ吾が自由なりゆりヨホイヤー
いてい ゆ くら わ じゅう

ハーラーへイヨホー

一、長雨切りやがりや沖やとうりどうりどう
ながむいき うき

七離れ晴りて、七離れ見ゆり
ななはな は ななはな み

一、沖や北吹きゆり、浦や南吹きゆり
うき にしふ うら はいふ

加那がふところや真南吹きゆり
かな まほいふ

一、夜走しぬ舟やかくれ礁どう仇
ゆばら ふねい す かたき

加那待ちゆる夜や友人どう仇
かなま ゆる どうし かたき

一、二十日夜ぬ暗さ後先む見らぬ
はつかゆ くら あとさき み

加那に思めなすいば御十五夜ぬ御月
かな う おじゅごや うでいき

東れ日ぬ春加那節

一、 東れ日ぬ春加那や だーぬ村ぬ、 稲がなし

※ 稲がなし

ヨハレーうま見ちやめー きくじよ加那てるこくまゆし

※ くまゆし

ヨハレーうまみちやめー きくじよ加那てるこくまゆし

一、 てるこから下りて今日ど二日なりゆり

三日戻り四日戻り しゅん人ど見ぶしやかなしや

一、 てるこがでい豊だるいね加那と春加那

なるこがでい豊だる 熊義、 彦恕加那

朝顔節

一、若松ぬ一ハレー下に
龜ぬ魚ぬハレー遊び

龜ぬ魚ぬ いう
ハレー遊び

※ 龜ぬ魚ぬ いう
ハレー遊び

鶴や羽根たりてい
舞いハレー美らさ

舞いハレー美らさ

一、今日ぬ佳かる日に、夫婦まぐわいて

巣籠ぬ栄、鶴ぬ如に

一、月に願立ていてい、昇る太陽拵でい

産ちやる親がなしぬ、百歳世願お

一、松や枝持ちゆり枝や栄えりゆり

殿地しよしられや うりがごとに

渡しや

一、ハレーならだなしゅうてー

ハレーくぬ渡しや舟、ハレー乗りゆり

ハレーくぬ渡しや舟、ハレー乗りゆり

※ ハーレあん役人やだん役人ヨー

かんいもちたばくみしよれー

たばくみしょれートユートユー

ハレーぬされ日ぬあればー

ハレーくぬ渡しや舟、ハレー止むいろ

ハレーくぬ渡しや舟、ハレー止むいろ

※ アケ、ケ、ケ、ケ、ケ

かしやる人と子産ち

孫見りよしゃんなートユートユー

一、喜界や六間切り、とゆだるあしやげ

中入りやに見るば、あだね柱、根柱

一、喜界や六間切り、大島や七間切

徳、永良部、与論な沖縄ぬ地ぬ内

飯 米 取 り 節

一、何処ちが参ゆる色白女童

(はんめぬ足らだなしゅうてい)

※ ハーラドツコイドツコイー

はんめぬ足らだなはんめ取りが

はんめや吾が取て持たさば

※ ハーラドツコイドツコイー

吾一人だんだん昼山焼こや ヒノヨヤーレー

一、昼山ちば如何しが焼きゆり

(ひるやま いきや)
野原ぬ原宿りなんてい

青芭蕉敷ちゆていうがしど焼きゆり

一、吾二人しやん事言ちやる事や

(わつたり くとい)
命ぬある限りや

言ちもくりるな語で いもくりんな

長きく女節

一、長きく女やハレー 何処ちが参ゆる長きく女

ヨハレー何処ちが参ゆる長きく女

※ 何処ちが参ゆる長きく女

がつきよ打ちがハレー 伊子茂又かちがつきよ打ちが

ヨハレー伊子茂又かちがつきよ打ちが

一、活国兄 何処ちが参ゆる活国兄

一途なりが 愛しやる長きく女と一途なりが

一、小母ぐわ小母ぐわ水汲でい飲すい

あろがぐわ小母ぐわていばんかしややばんがしや

一、走り川水 長きく女が飲だる水走り川水

溜まり水 活国兄が飲だる水溜まり水

た みでい かていくんやくむい ぬ みでいた

は こみでい ぱっけぐわ みでいくでい ぬま こみでい

た みでい かていくんやくむい ぬ みでいた

は こみでい ぱっけぐわ みでいくでい ぬま こみでい

太陽ぬ落ていまぐれ（御枕節）

44

一、太陽ぬ落ていまぐれにー

坐ちゆて泣きゆる鳥ー鳥ーハリクリサーサー

加那が上やあらむいー 吾上や吾上うやあらむいー

あわれサーサー吾上や吾上やあらむい

※ あわれサーサー吾上や吾上やあらむい

時や物知りにー

時とらち見りば見りばーハリクリサーサー

加那が上もあらぬー 吾上もあらんち言ゆんちやんなー

あわれサーサー吾上もあらんち言ゆんちやんなー

一、御枕よ枕、物言わぬ枕枕

加那が仲吾仲言うなよ枕

枕ぬいじて物言うためなりばなりば

加那が仲吾仲言やだなうきゆむい

寅申長峰節

たらさんながね

一、ハレー寅申長峰なんてい　ハレふていむゆる煙よ

※ ウセーヨーンノー

ハレー徳ぬまゞぞめが　ハレたよひ煙草よ

一、徳ぬ浜先にふつもゆる煙よ

牛焼きち思ば塩屋ぬ煙よ

一、浜ながて行くば、しゅくぬ子ぬ寄ゆりよ

網とでいぬえだな吾肝やまちよ

一、網寄せて曳くば、さひで寄せて曳くばよ

網や網だますさでいやはらこでだますよ

一、呪女や呪女だますぐぢやぐぢだますよ
たます打ち果てて主やどまでよ

一、島ながて行くば、女童ぬ一群よ

三味線な持たず事ど欠きゆるよ

國直よね姉や 節

46

一、國直よね姉や ※ ハラドツコイドツコイ

うがしど頭ちや結うゆんにやー

うがしど頭ちや結うゆんにやー

うがしど頭ちや結うゆんにやー

※ うがしど頭ちや結うゆんにやー

真中にひきつけて ※ ハラドツコイドツコイ

頭ぬ真頂に結わんなー頭ぬ真頂に結わんなー

頭ぬ真頂に結わんなー

一、國直よね姉や 朝顔ぬお花

國直みぬ次郎や 蝶なて舞ゆり

國直よね姉や 国直よね姉美ら者ぐわ

國直よね姉や 山下青年きやんにや及ばんど

いそ加那節

一、ヤレー 何處だかちが参りゆる梅仁志主

スラガヨイヨイ梅仁志主

※ スラガヨイヨイ梅仁志主

花はな呉なれがヤレー いそ加那墓かなはかい行ゆぢ 花はな呉なりが

スラヨイヨイ 花はな呉なりが

一、荒あらすなよいそ加那墓場所かなはかばしょ荒あらすなよ

吾わが持もたそ線香せんこうと花はなや吾わが持もたそ

一、椎しいや実ねるな枝手いだと久しまぬ島しまなんにや椎しいや実ねるな

舟ふね散あむろらち阿室あむろぬ長松ちょうまつが舟ふね散あむろらち

一、大和旅やまととたびすいりば月数つきゆうでいど待ちゆり

後生ごじゅが旅たびすいりば何数ぬゆでいど待ちゆり

一、浮世仮島うきよかりじまに面影おもかげば残のまこち

先定さきさだまらぬ人ひとど 恨ちゆうむしやぬ

徳之島節

とくのしまむ
エリイ 慶之島向かてい
飛びゆる 綾蝶

※ スラヨーイスター

伝言ぐわ また頼も、 頼も

仕方や無んど無んど
千松姉ぐわ（いや）

一、エーイ昨夜ぬうとうまらしゃ
蜘蛛ぬ舞い下がてい

※

よ
ね
今夜やうとうまらしや 汝きやばまた拝でい
な
うか

まわりや三合瓶ぐわ受けれよ硯蓋ぐわ
さんこうびん うすいすりぶた

一、エーイ仇ぬ世の中に長らえていどうりば

※ スラヨーイスーラ

あさゆう
ち
なだ
すでい
しぶ

仕方や無んど無んど
我きやが魂

一、エーイかしていきぱんち
氣張たんち
誰がためくたる

※
スラヨーライスクーラ

やまと
大和いちゅぎんりやんきやぬ ためどうなりゆる
いちゅぎりやんきやぬ にやうらめしやや

徳ぬ島一切節

一、徳ぬ島一切節 一切りなさらんかや

アケー一切りなさらんかや

※ アケアケ一切りなさらんかや

一切りや加那がため 一切りや我がためど

アケー一切りや我がためど

一、吾二人談合しゆうて名瀬かちひんぎろや

名瀬や島近さぬ鹿児島ひんぎろや

一、なきやが家と吾きやが家や田角ひだめどうり

朝見ちむ昼間見ちむまた夜見りぶしやぬ

一、飛びゆる鳥だもそ先見ちど飛びゆり

なきやが肝心見ちどヨーきやおろ

一、お月様さえも雲が宿取りゆり

吾家ぬやしやあていむ泊てヨーたぼれ

わきやや

一、かに美らさ照りゆるお十五夜ぬお月

加那が門に立ていば曇^{くも}ていヨーたぼれ

加那が門に立ていば曇^{くも}りぶしややすが

よそぬ目^めぬしげ^{くち}ぞ口^{くち}ぬヨー高^{たか}さ

曲りよ高頂節

一、まがりよ高頂に。※スラヨイヨイ

ハレーア提灯ぐわば灯ぼちと
ちようちん

ハレーア提灯ぐわば灯ぼちと
ちようちん

※ハレーア提灯ぐわば灯ぼちと
ちようちん

うりが明かがりに。※スラヨイヨイ

ハレーア偲でまたいもれ。※スラヨイヨイ

ハレーア偲でまたいもれ

一、うりが明がりに偲で行きよにすれば

よそぬ目ぬしきき口ぬまた高さ

一、山ぬ木ぬ高さ 風にくまれて

肝高さ持てばそよかぜがまたにくむ

一、心持ちなしや ばしやぬ葉ぬ広さ

松ぬ葉ぬすべさ持つなよ加那

行きよれ節

一、別りてや行ぢむよー 忘りていや給んな給んなー

行きよいうれヨイヨイー

※ 行きよいうれヨイヨイー

稀々ぬ便りやー 持たちまた給れ給れよー

行きよいうれヨイヨイー

一、稀々ぬ便り持たし欲しややすが

なが親ぬ嚴さ持たし苦しや

一、行きよ行きよにすれば後面影立ちゆり

居ろ居ろにすれば義理が立たぬ

一、なごびりやぬ頂に白鳥ぬいちゆり

白鳥やあらぬ みよてい主が魂

一、からからぬ上に盆ぬ舞ゆり

塩盛りさしん鉢に箸ぬ舞ゆり

側家戸節

一、ハレー側家戸ば ハリクリクリキヤーシュンガ
すばやど すば や ど ぶし

※サンシユテクラシユメ

開けてはい加那待ちゆる一^夜やよー
あ かなま ゆる

※スラヨイヨイー

ハレー夜 あらしーやー ハリクリクリキヤーシュンガ
ゆる ゆる

※シンガイカデクラシユメ

繁くはい加那や一見らぬよー
しげ かな み

※スラヨイヨイー

いまにくれーきやーしゅんがよー里めー
さと

一、池間ぬ泊くぶしゆめぬ寄りゆり
いきんま とまり ゆり

赤金ぬ刺や五百五十五しやく
あかがね 刺や ぐひやくぐんじゅく

オヤシマシ

一、山登ていかばしやむちがしやぬかばしや
やまねぶ さと めらべん

里うりていかばしや女童きやぬかばしや
さと くわむ うなぐ

一、山登ていくさき、とぐら木ぬ葉ぬくさき
やまねぶ さと ぎ は

里うりていくさき、子持ち女ぬくさき
さと くわむ うなぐ

山と与路島節

一、ハレ山と与路島や　ハレ親のろや　一人よ

ハレ舟割りやぬから

※ スラヨイヨイ

ハレ間切りわかそヨーホンノ　ハレ舟割りやぬから

※ スラヨイヨイ

ハレ間切りわかそヨーホンノ

一、昔親ふじや島建ぬ悪さ

加那が島吾島間切りわかつ

一、親ぬ教事や身上ぬ宝

耳に聞き止むいてい胸に染むいろ

一、天ぬむれ星や読むいば読むいなりゆり

親ぬ教事や読むいやならぬ

一、此の世明がらす御月様御蔭

吾上ぬ明がりや親ぬ御蔭

ほこらしや節

一、ヤハレー今日ぬ嬉らしゃや
※ ハラー
ヤハレー何時よりー

※ イチヌカラニヨーヒルヌカラニヨー
何時よりも勝りイーヤー ヤーレー何時よりー

※ 島一番ヨ村一番ヨー

何時よりも勝りー

※ 何時よりも勝りー

ハレイー何時も今日の如に
ヤハレーあらーよーちー

※ ヨイユタムンジヤタトエタムンジヤー

あらよーち給れイーヤー

※ 北カラ参チナー東カラ参チナー

あらよーち給れー

一、北からど参もち東からど参もち

果報な取りや合しや稀れやあらめ

嘉徳なべ加那節

三下り

一、ハレーアー嘉徳なべ加那やー

イヨーヤレー如何しやる生れしちがヨイー

※スラヨイサヌヨイヨイ

ハレーアー如何しやる生れしちがヨイー

※ハレーアー如何しやる生れしちがヨイー

ハレーアー親に水汲まちー

イーヨーヤレー居ちゅて浴むいろやーシューラーイー

※スラヨイサヌヨイヨイ

ハレーアー居ちゅて浴むいろやーシューラーイー

一、嘉徳なべ加那が、死じやる声聞くば

三日や御神造てい、一七日遊ぼ

一、嘉徳浜先に生ゆる美麗かずら

生え先ぬねえだな むとに戻ろ

一、むとどむとなりゆるすらじ根ぬ咲きゆむい

すらじぬ根ぬ咲きゆつさ根なしかづら

元ちとせ
①②③
A D G

長雨きりやがり節

ながむい

ぶし

一、長雨きりやがりや 沖や嵐り嵐りとう

ながむい

うきとうとう

沖や嵐り嵐りとう

うき

とう

どう

※ 沖や嵐り嵐りとう

うき

とう

どう

沖や嵐り嵐りとう 七離れ見ゆり

うき

とう

どう

七離れ見ゆり

ななはな

み

ななはな
み

こ う き 節

一、「うき」「うき」「うきまさ主^{じゅ}」がイー
ハーレー三味線^{さむしん}かたむいていさりこ
ヨーさりこ 「うき」「うき」 ※ 「うき」「うき」
うりが妻^{とじ}なりゆん人や一れハーレー
唄者^{うたしゃ}ぬ上手^{じょうず}ヨー上手^{じょうず}「うき」「うき」
うりが妻^{とじ}なりゆん人や一れハーレー^{ちゅう}
唄者^{うたしゃ}ぬ上手^{じょうず}ヨー上手^{じょうず}「うき」「うき」
一、須垂^{すたる}ぬ内海^{うちうみ}なんどざんぬ魚^{いわ}ぬこまでい
ノまで いうり取て食みゆん人や 大和^{やまと}かち御用^{ぐようぐゆう}御用^{ごゆう}
一、彼方^{あつか}らが三合^{さんご}びんぬきゆり 吾^わん貰^もれがぬ三合^{さんご}びん三合^{さんご}びん
吾^わんやかくれとらば 居^ゐらんちいいよ友人達^{どうしんきやどうしんきや}友人達^{ともせん}
一、彼方^{あつか}らが伝馬船^{でんません}ぬきゆり 吾^わん貰^もれがぬ伝馬船^{でんません}伝馬船^{でんません}
吾^わん貰^もれがぬ伝馬船^{でんません}ありば 餅重^{もちじゅう}提^さげ重^{じゅう}ぬ降^うれるはず

花染め節

一、花染に惚りてー 童妻かむいていー花ぬー
さおれればよーイー

吾くと思んしよれー デツショーマーヨー花ぬー
はなぞめ ふ わらべとじ うめ

さおれればよーイー

吾くと思んしよれー デツショーマーヨー花ぬー
わん うめ わらべとじ うめ

一、童妻かむいてい、肝許ち置くな
わらべとじ ま たづな きむゆる う

よかり馬ぬ手綱 許ち置くな
わらべとじ ま たづな ゆる う

一、愛しや愛しや、童妻愛しや
かな かな わらべとじ かな

物言やち愛しや、染でも愛しや
むねい かな すばゆ かな

一、童妻かむいてい、側寄りば泣きゆり
わらべとじ すばゆ な

何時が抱き育だち、寝首抱きゆり
いつい だ ねくびだ

一、花咲かば香い、枝むちやいらぬ
はなさ にお えだ

なりふりやいらぬ、人や心
ちゅ こころ

稻すり節

- 一、今年世や変わってい、稻粟ぬ出来てい
　　サ一稻すいりすいりよあらゆりゆりよ
- 一、千石ぬ米む、摺ていどひならしゆる
　　氣張てい摺り摺り姉妹んきや
- 一、節米かむいらしゅんど
- 一、今年年がなし、果報な年がなし
　　道ぬ筐草も、真米またなりゆり
- 一、粟ぬ摺らりゆめ米ど摺らりゆる
　　氣張てい摺り摺り女童んきや
- 一、鳥ぬ米かみゆんど
- 一、今年世や一倉、来年なりば一倉
　　来年ぬ稻がなし畦また枕

天草

- 一、唄うたをうたいましょうばばかりながら
- 唄うたぬあやまりヤコラー御免ごめんなされ
- 一、ここやしきの屋敷やしきは 祝ゆわいの屋敷やしき 黄金花咲くがねはなくヤコラー良か屋敷よやしき
- 一、道ぬみち天草あまくさまき出す時じや 可愛かわい嫁女よめじょがヤコラー袖そでしほる
- 一、太鼓たいこうちやれ三味線さみせん彈ひきなされ 様さまが太鼓たいこならヤコラー三味さみいらぬ
- 一、十七・八頃じごろ 煙草たばこの青葉あおば 早く取はるらんにはヤコラーきしが付とく
- 一、様さまはいくつか二十二か三さか 何時いつも変わらぬヤコラー二十二・三
- 一、奄美しまに娘むすめぬ踊おどりぬ美きゅらさ 指笛はとも調子ちょうし子こぬヤコラー輪わをかける
- 一、はずむたいこ太鼓たいこに皆みな出て踊おどれ 親おやの手て踊おどりヤコラー子こが習ならう
- 一、皆みなが踊おどればかくれた月つきも 雲くもの合間あいまにヤコラー笑顔わらいがお
- 一、私わたくししやお前まえさんに七惚ななほれ八惚やはれ 今度こんど惚ほれたらヤコラー命いのちがけ
- 一、踊おどり上手じょうずぬ袖振すぐるり見みれば 三味さみに踊おどるヤコラー綾蝶あやはぶら

ワイド節

ワイド、ワイド、ワイドー

吾きや牛ワイド、全島一ワイド

一、三京ぬ山風、いきや荒さていむ

愛しやる牛ぐわに草刈らじうかりゆむい

※ ウーレ、ウレウレ

手舞んけ足舞んけ指吹け塩まは

ウーレ、ウレウレ

吾きや牛ワイド、全島一ワイド

一、全島一なそちど破れ着物な着ちやる

雨風しやんていむ牛ぬ飯米や忘りんな

一、吾きや思め牛ぐわぬ技美らさ見ちやむい

眉間突き角掛け、手先技見事

一、子孫寄らじでい、育しやる牛ぐわ

今日ぬ晴れ場所でいさつさ氣張ていんによ

六 調

一、ハレーアイめでためでたの若松様ヨ
わかまつさま

枝も榮える葉も茂るヨイヤナ一
えだ さか は しげ

一、ハレーアイ立てばしやくやく座ればぼたん
あと た

歩む姿は百合ぬ花ヨイヤナ一
あゆ すがた ゆり はな

一、ハレーアイ踊り好きならはよ出て踊れ
あと おど す おど おど

後ははぐれて踊ららぬヨイヤナ一
おと おど おと

一、ハレーアイ千両万両の金にはほれぬ一
せんりょうまんりょう かね

私しやお前さんの気にほれるヨイヤナ一
わた まえ き

一、ハレーアイこは重富越ゆれば吉野
しげとみこ よしの

吉野越ゆれば鹿児の島ヨイヤナ一
よしのこ かこ しま

一、ハレーアイあなた百まで、わしや九十九までー
とも ひやく

共に白髪のはえるまでヨイヤナ一
とも しらが

一、ハレーアイ岳ぬ高さや屋久島岳よ
たけ たか やくしまだけ

島ぬ長さや種子島ヨイヤナ一
しま なが たねがしま

六 調

一、ハレーアイめでためでたの若松様わかまつさまヨ

枝えだも榮さかえる葉はも茂しげるヨイヤナー

一、ハレーアイ立てばしやくやく座すわればぼたん

歩あゆむ姿すがたは百合ゆりぬ花はなヨイヤナー

一、ハレーアイ踊おどり好きならはよ出て踊おどれ

後あとははぐれて踊おどらぬヨイヤナー

一、ハレーアイ千両万両の金せんりょうまんりょうにはほれぬかねー

私わたししやお前まえさんの気にほれるヨイヤナー

一、ハレーアイここは重富越しげとみこゆれば吉野よしの

吉野越よしのこゆれば鹿児かこの島しまヨイヤナー

一、ハレーアイあなた百ひゃくまで、わしや九十九くじゅうくまでー

共ともに白髮しらがのはえるまでヨイヤナー

一、ハレーアイ岳たけぬ高たかさや屋久やくしまだけ島岳たねがしまよ

島ぬ長しまながさや種子たねがしま島ヨイヤナー

一、ハレーイ長い刃は差しよがざるー

うしろさがれば前あがるヨイヤナ一

一、ハレーイ舟の船頭誠にあれば

立てた柱に花が咲くヨイヤナ一

一、ハレーイ好きなお方と道ずれすれば

道の枯草花が咲くとヨイヤナ一